

カフェの前で井上さんご夫婦と編集委員



がんばる ファーマー応援記

Vol.17

～田んぼの価値最大化を目指して～

東狸久保 株式会社farm1739

代表 井上真梨子さん・敬二郎さん

今回は、東狸久保地区の株式会社farm1739（イナサク）の代表 井上真梨子さんと井上敬二郎さんご夫婦にお話を聞きしました。

井上さんは、以前は岡山県で自ら栽培した野菜を提供するカフェを経営していましたが、5年前に真梨子さんの父が病に倒れたことを契機に、那須町に移住し、農業を継承することを決意しました。

今では自宅の敷地内に設置した小さなカフェを、毎週土曜日に営業するとともに、自社生産の米を自ら加工した商品の販売をしています。

▼農業の内容や主要作物などを教えてください。

就農した当初はアスパラも栽培していましたが、農園の将来を考えた時に米とアスパラを家族経営で続けていくのは大変でこのままでは体を壊すと思い、米専門でやっていく覚悟を決め、米を加工して販売することにシフトしてきました。のがここ5年間です。

▼加工品はどんなものを作っているんですか。

就農した次の年からポン菓子

の「イナポン」を販売し、その後は甘酒、米粉、パックごはんなどの販売を開始しています。

▼那須町に移住しての感想は。

寒いけどいいところだと思えます。那須は観光地でもあるから日々都会から人が来ていて、カルチャー的に古くなっているというか、田舎だけど田舎じゃない。那須ならではの環境だと思えます。カフェのお客さんも都会から来られる方が多く、商品に対しての反応も良く、6次産業化のしやすい環境だと思います。

今、カフェで米粉を使ったお菓子でカヌレを販売しているので、インスタグラムをやっているお客さんが、このカヌレを載せたところ、次の週にはお店に入りきれないほど多くのお客さんが来たことがありました。

ちょうど粉摺りの時期で、粉があたりに舞っているところだったので、車に粉が入ってしまったとクレームになったことがあります。

一般の消費者の皆様は、生産の現場をご存じない方が多く、お米を選ぶ時も単純に価格だけで比べてしまうと思います。で



井上さんの販売するお米とポン菓子等の加工品



できればこの場を通していろいろな方に農業の現場や農家の想いを知っていただきたく、この店を始めました。
米は味だけを売りにして販売するのはなかなか難しいので、まずは人目をひく商品で興味を持っていただき、併せて米も買って味わっていただきたいと考えています。